

平成24年度学習状況調査 結果の概要

平成25年2月
義務教育課

平成24年度学習状況調査について

【今年度の結果概況と考察】

- 小学校はほとんどの教科で、おおむね満足な状況である。ただし、小学校第4学年国語においては、現行の学習指導要領に対応した新問を増やしたため、通過率が低くなった。

小学校第4学年国語においては、複数の資料をもとに自分の考えを表現するなど、読解力を育成するための学習指導を更に充実させることが必要である。

- 中学校においては、設定通過率に達しない教科が半数以上ある。特に、社会及び数学、理科に課題が見られ、習得した知識・技能を活用して解決する問題や高校入試との関連を図った問題を出題した結果、特に思考力や表現力の育成を目指した内容について、通過率が低かった。

数学と理科に関しては、改善の兆しが見えるものの、依然として課題が見られる。社会では、高校入試との関連を図った問題を例年より多く出題したところ、昨年度と比較して通過率が低くなった。

これらの教科において、思考力・判断力・表現力を育成するための学習指導や授業改善が十分に進んでいないことが要因と考えられる。

- 学習に対する意欲は、昨年度と同様に肯定的な回答の割合が高く、中学校における改善傾向も続いている。
- 授業については、「発表する機会が与えられている」及び「学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている」と答える児童生徒の割合が非常に高く、特に中学校における改善傾向が顕著である。
- 生活全般については、昨年度と同様に肯定的な回答の割合が高く、全国学力・学習状況調査における本県の数値と比較しても高い状況にある。
- 家庭学習時間については、全ての学年で「全くしない、または30分未満」の割合が低く、本県の児童生徒は家庭学習の習慣が定着している。
- 読書については、全ての学年で80%以上の児童生徒が「読書が好きである」と肯定的に回答し、90%以上の児童生徒が月に1冊以上の本を読んでいる。

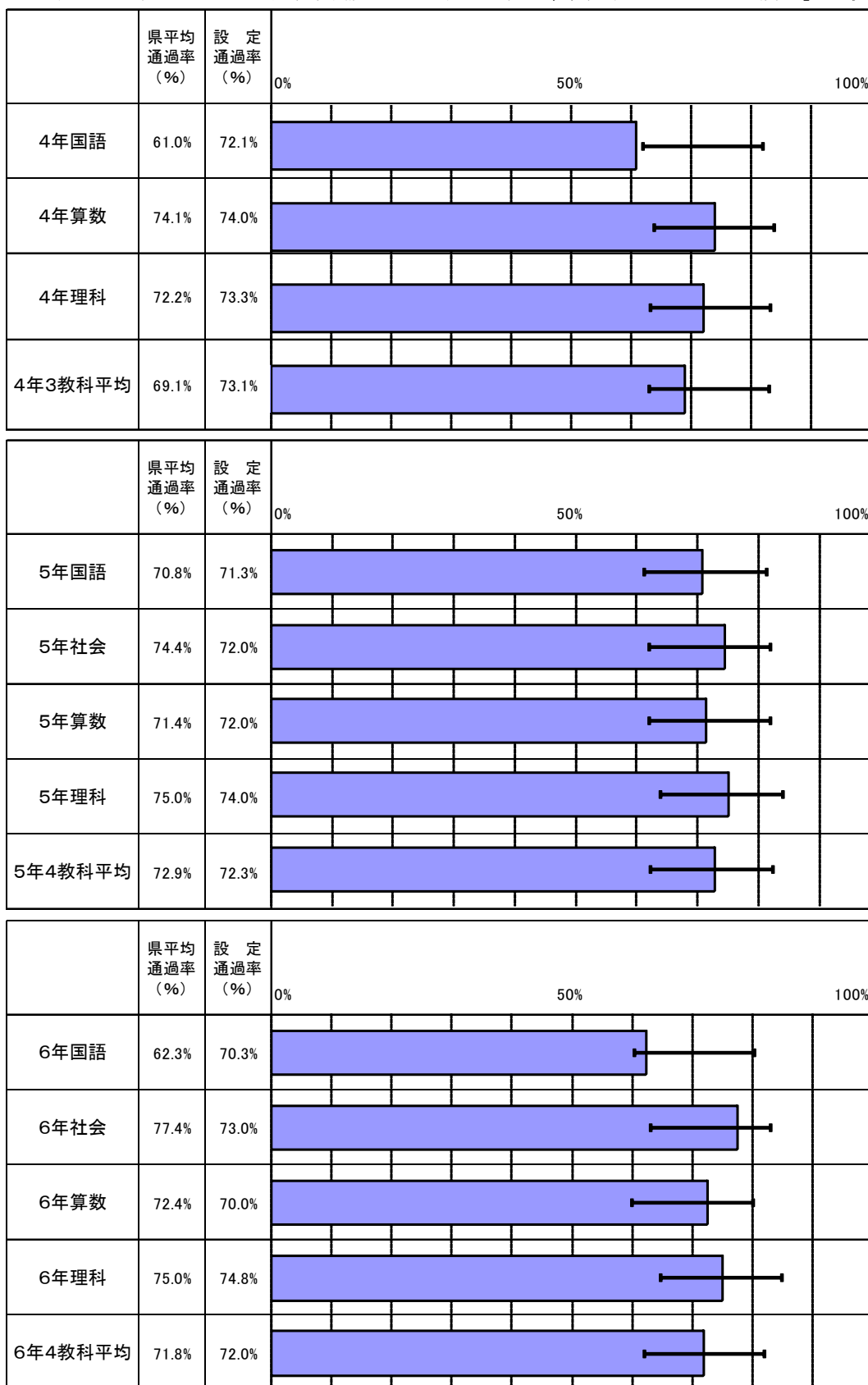
全ての学年で月に1冊以上の本が読まれていることは、小・中学校における朝読書の習慣も一因となっていると考えられる。

1 ペーパーテストの結果

(1) 小学校の平均通過率

————— は設定通過率の±10%

設定通過率の+10%を超えるか同程度(設定通過率±10%の範囲内)を「おおむね満足」な状況とする。

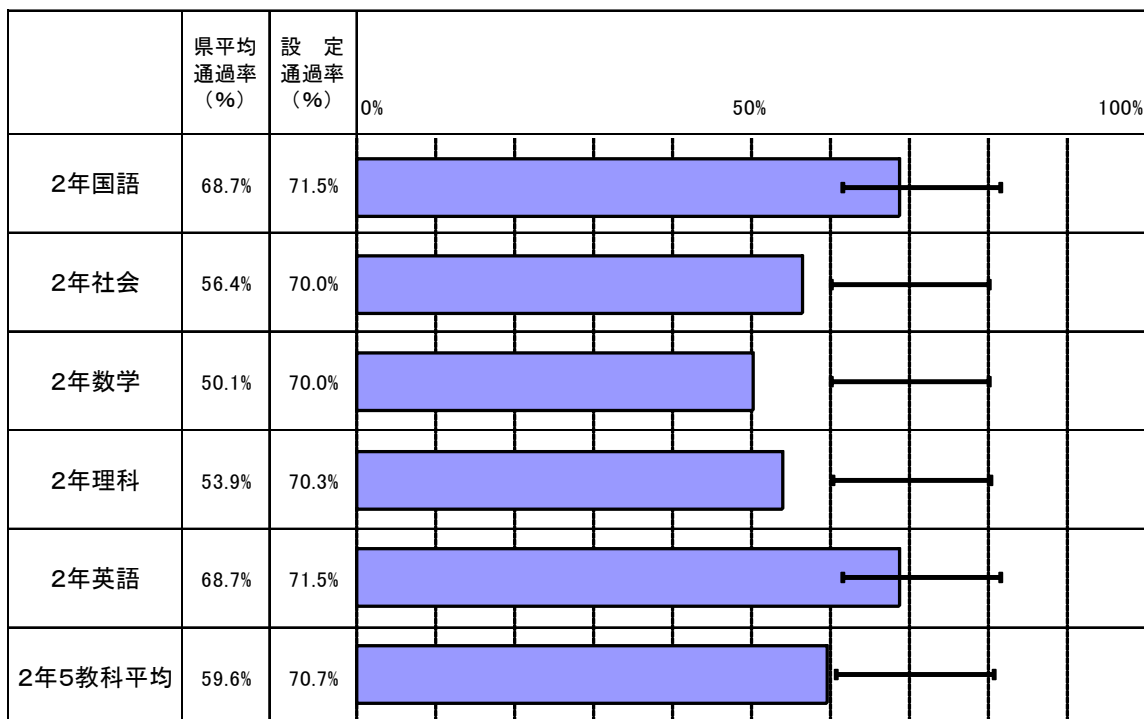
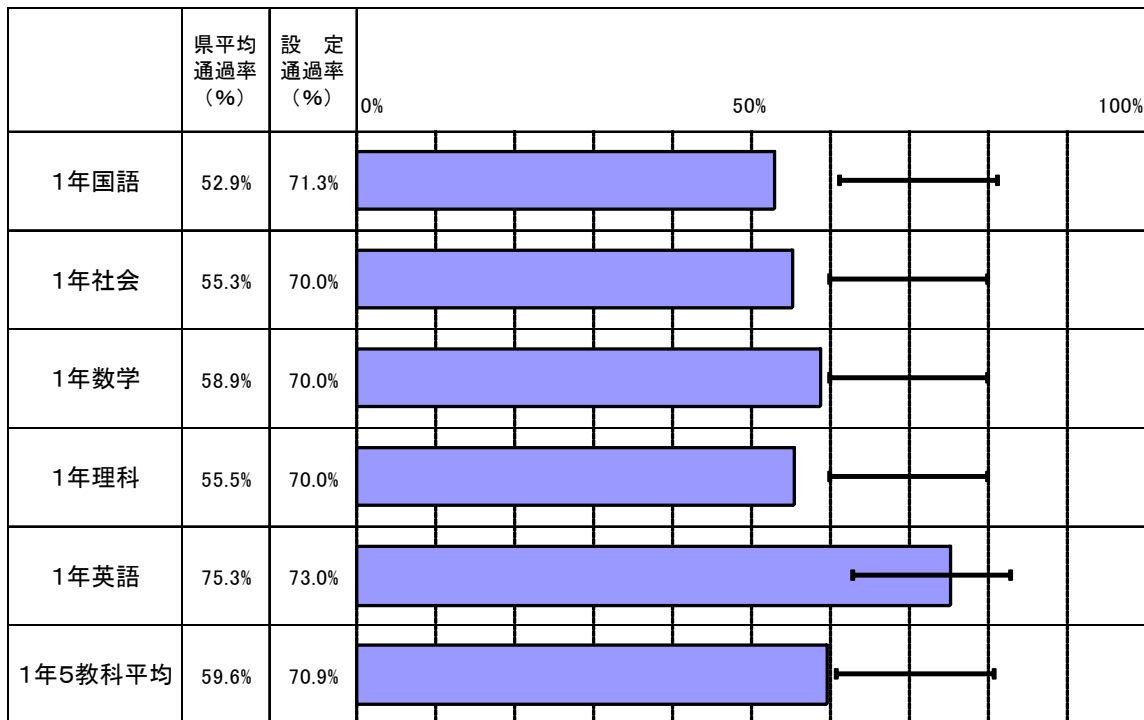


小学校第4学年の国語を除いた学年・教科において、「設定通過率-10%」のラインを上回っており、おおむね満足な状況にある。小学校第4学年の国語の県平均通過率が低い結果となったことについては、現行の学習指導要領に対応した新問を増やしたことが要因と考えられる。

(2) 中学校の平均通過率

は設定通過率の±10%

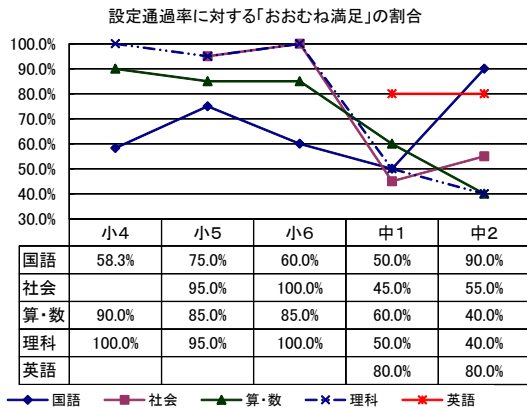
設定通過率の+10%を超えるか同程度(設定通過率±10%の範囲内)を「おおむね満足」な状況とする。



第1学年英語、第2学年国語、英語だけが、「設定通過率-10%」のラインを上回った。その他の教科において県平均通過率が低い結果となったことについては、本年度から学習指導要領が全面実施となり、各教科とも思考力や判断力を問う内容の出題を増やしたことが要因と考えられる。

(3) 設定通過率との比較

設定通過率の+10%を超えるか同程度(設定通過率±10%の範囲内)を「おおむね満足」な状況とする。



「設定通過率-10%」を超えた設問数の総計・割合は400問中291問72.8%で、小学校86.5% (200問中173問)、中学校59.0% (200問中118問)であった。

学年・教科ごとにみると、社会及び算数・数学、理科は小学校第6学年から中学校第1学年で大きく数値が下がる。

特に中学校第2学年の数学と理科では、設問の6割が設定通過率より10ポイント以上下回っており、課題が見られる。

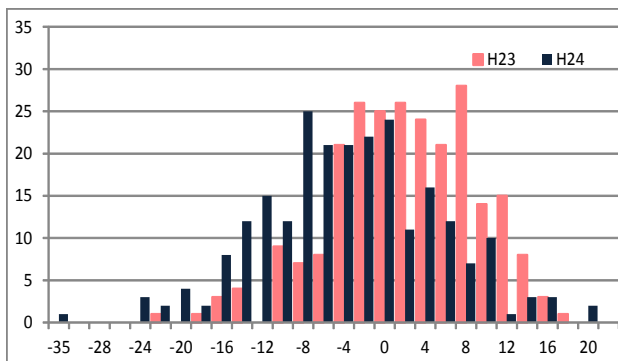
国語では中学校第1学年の説明的文章を読むことに課題が見られる。

英語は学年の差は見られない。

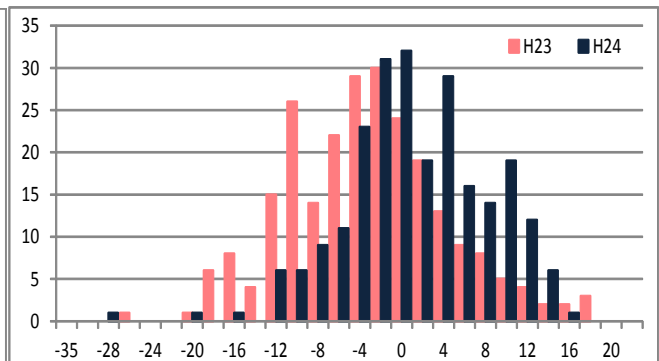
(4) 学力の定着度別学校数

設定通過率の平均との差でみた学校数度数分布 (2か年比較)

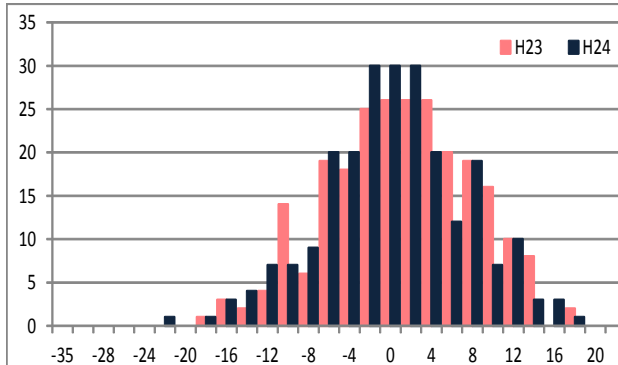
小学校4年生



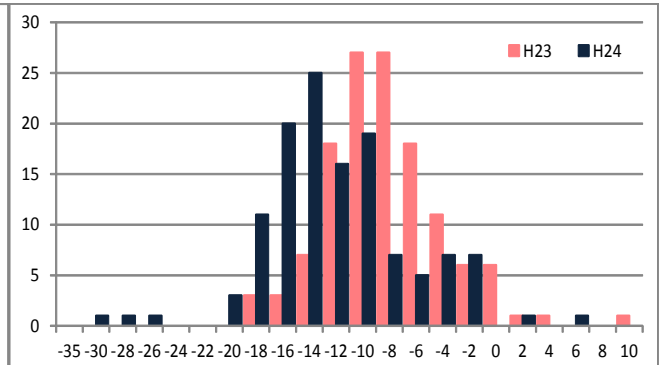
小学校5年生



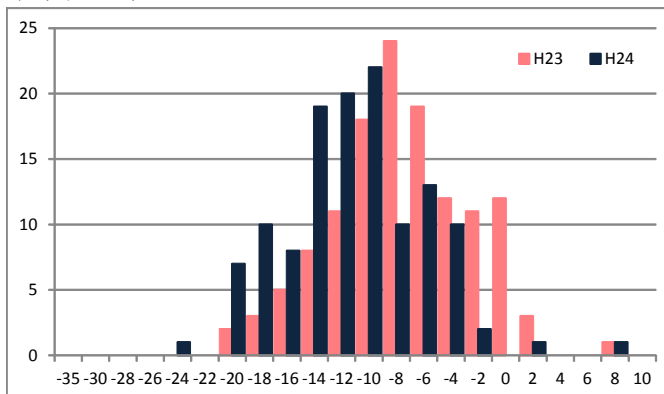
小学校6年生



中学校1年生



中学校2年生



小学校では、第4学年において設定通過率に達しなかった学校数が増加した。第5学年と第6学年では、設定通過率を上回る学校が増えた。

中学校では、設定通過率より低い通過率となった学校数がやや増加し、昨年度に比べて分布の範囲が広がった。

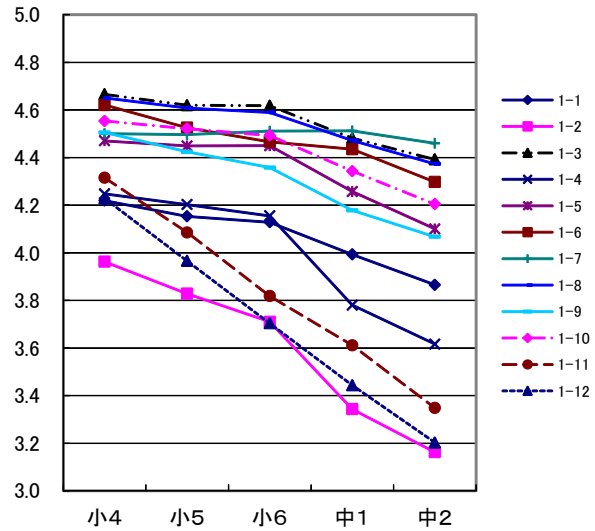
2 学習の意欲等に関する質問紙調査結果

(1) 学習全般についての結果概要

調査項目

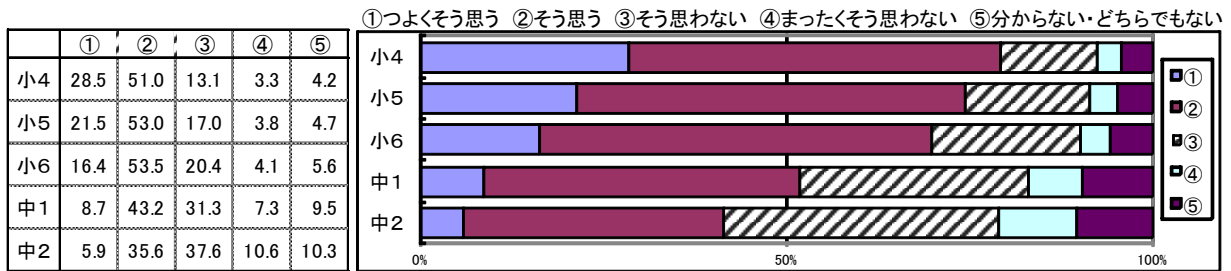
- 1-1 学校が好きだ
- 1-2 勉強が好きだ
- 1-3 勉強は大切だ
- 1-4 学校の勉強がよく分かる
- 1-5 勉強は受験に関係なくても大切だ
- 1-6 よい成績をとれるよう、勉強したい
- 1-7 受験に役立つよう、勉強したい
- 1-8 自分の好きな仕事につけるよう勉強したい
- 1-9 分からないことでも自分の力で答えを見つけられるよう、勉強したい
- 1-10 ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい
- 1-11 家族にほめられるよう、勉強したい
- 1-12 先生にほめられるよう、勉強したい

5点換算による県の平均

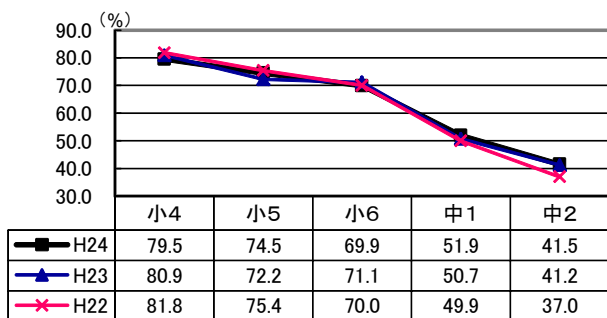


つよく思う…5点 そう思う…4点 そう思わない…2点 まったくそう思わない…1点 分からない・どちらでもない…3点

[勉強が好きだ]



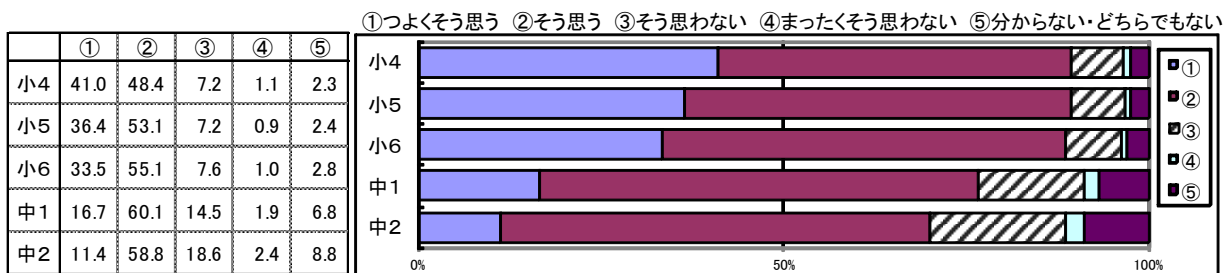
「つよく思う」「そう思う」の割合



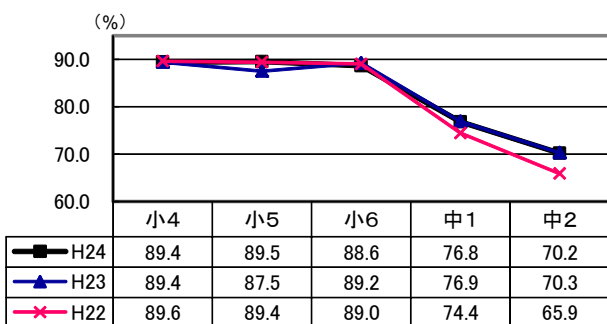
小学校では、第4学年と第6学年で肯定的な回答の割合が、昨年度と比較して微減したが、第5学年では微増した。

肯定的な回答の割合は、学年進行とともに減少するが、中学校ではH22、23に比べて高い数値となっており、良い傾向を示している。

[学校の勉強がよくわかる]



「つよく思う」「そう思う」の割合

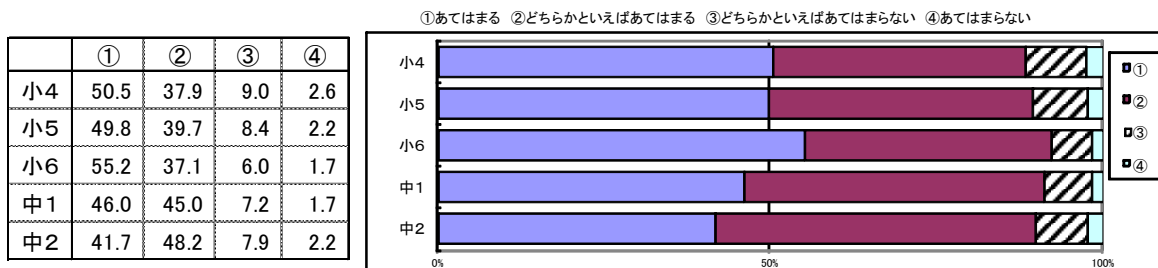


小学校では90%近くの児童が肯定的な回答をしており、30%以上が「つよく思う」と回答している。

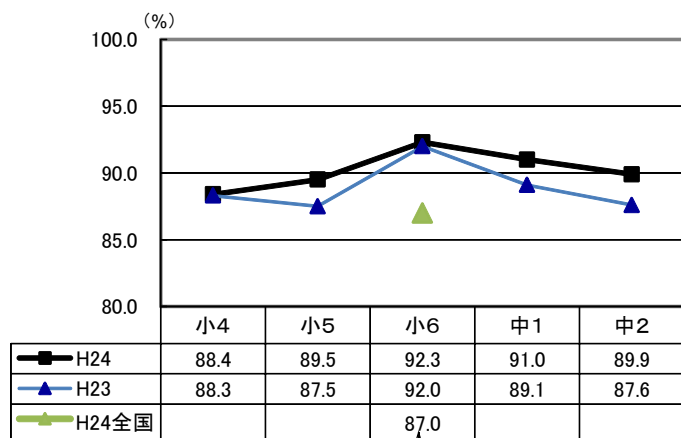
中学校においても70%以上の生徒が「つよく思う」「そう思う」と肯定的に回答している。

(2) 授業について

[ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う]



「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合



肯定的な回答の割合は、全ての学年で90%前後と高い数値となった

小学校第6学年では、全国学力・学習状況調査における秋田県データと比較して5.3ポイント高い。(全国平均は81.7%)

本県では、ふだんの授業において自分の考えを発表する機会が確保されていることが示されている。

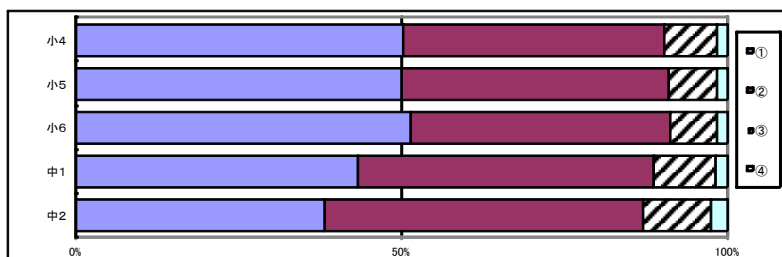
また、H23小学校第5学年とH24小学校第6学年を比較すると、4.8ポイント増加している。

↑ H24全国学力・学習状況調査における本県の数値 (以下同じ)

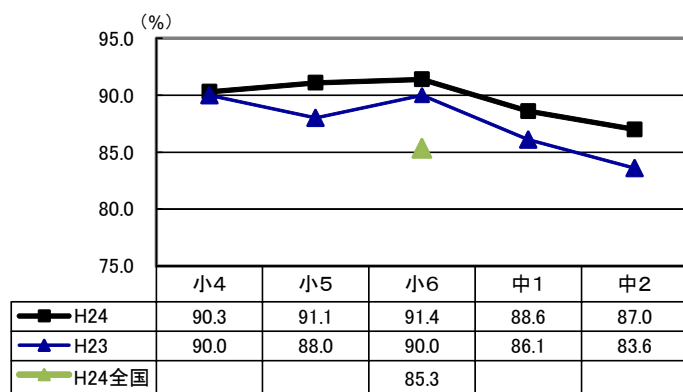
[ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている]

	①	②	③	④
小4	50.3	40.0	8.0	1.6
小5	50.2	40.9	7.4	1.5
小6	51.6	39.8	7.1	1.5
中1	43.3	45.3	9.4	1.8
中2	38.2	48.8	10.3	2.5

①あてはまる ②どちらかといえばあてはまる ③どちらかといえばあてはまらない ④あてはまらない



「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合



肯定的な回答の割合は、全ての学年で90%前後と高い数値を示している。

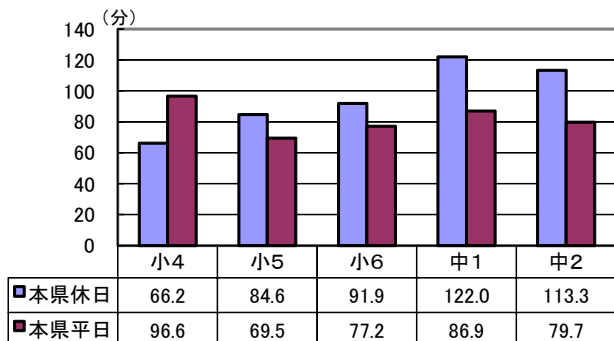
小学校第6学年では、全国学力・学習状況調査における秋田県データと比較して6.1ポイント高い。(全国平均は76.9%)

本県では、ふだんの授業において学級の友達との間で話し合う活動がよくなされていることが示されている。

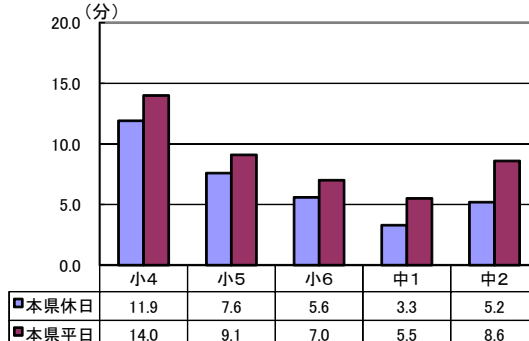
また、H23小学校第5学年とH24小学校第6学年を比較すると、3.4ポイント増加している。

(3) 家庭学習時間について

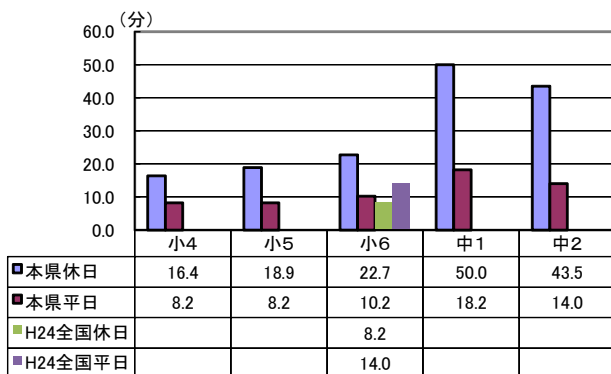
家庭学習の平均 (分)



全くしない、または30分未満の割合



2時間以上の割合



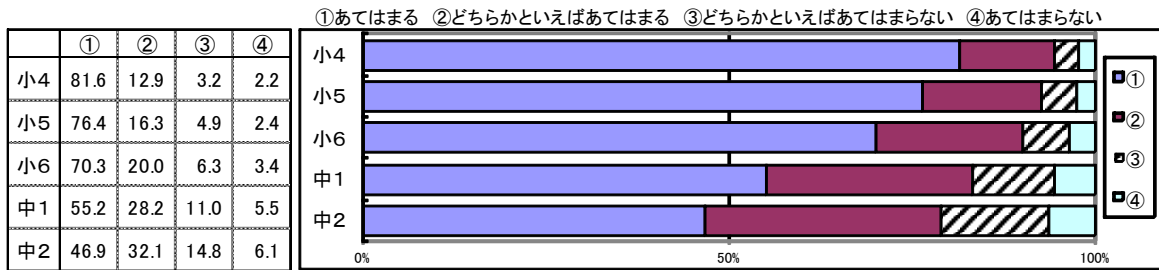
家庭学習を全くしない、または家庭学習時間が30分未満の児童生徒の割合は、全ての学年で低い数値であり、家庭学習の習慣がよく身に付いていることがうかがえる。

平日に1時間から1時間30分程度の家庭学習をしている児童生徒が多いと考えられる。

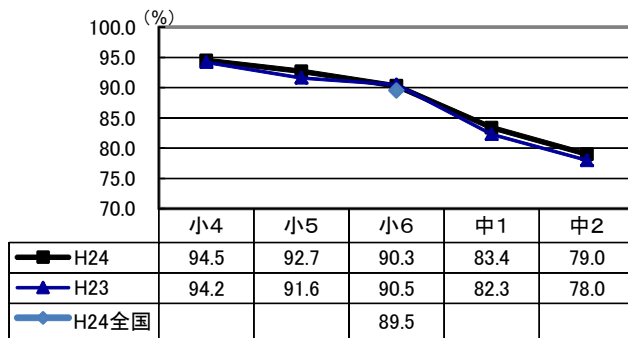
休日に2時間以上の学習をしている児童生徒の割合は、中学生になると高くなり、40%以上である。

(4) 生活全般について

[将来の夢や目標をもっている]



「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合

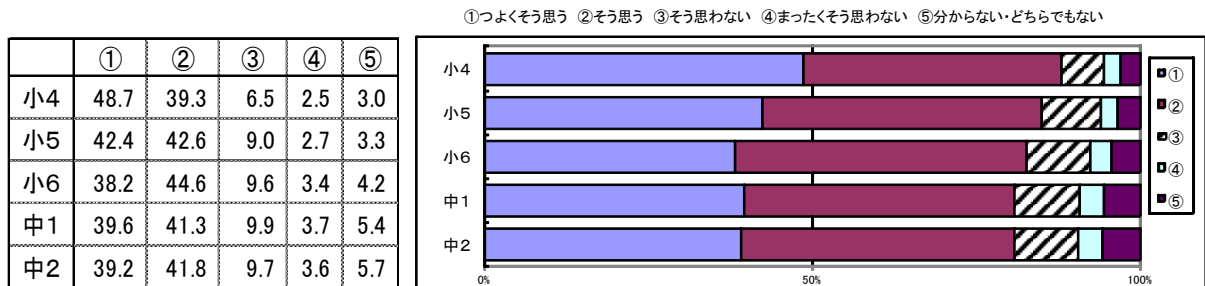


肯定的な回答の割合は、学年進行に伴って減少する傾向にあり、特に小学校から中学校にかけて約7ポイント程度低くなる。

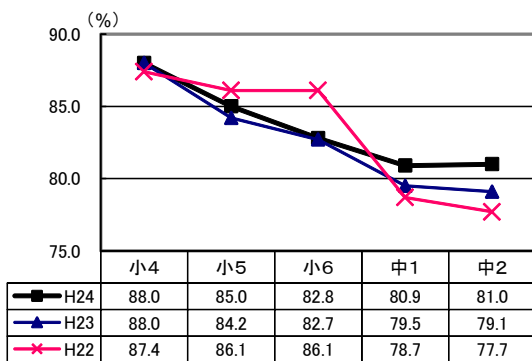
小学校第6学年の結果は、全国学力・学習状況調査における本県の数値と比較すると、やや高くなっている。(全国平均は86.7)

(5) 読書について

[読書は好きだ]



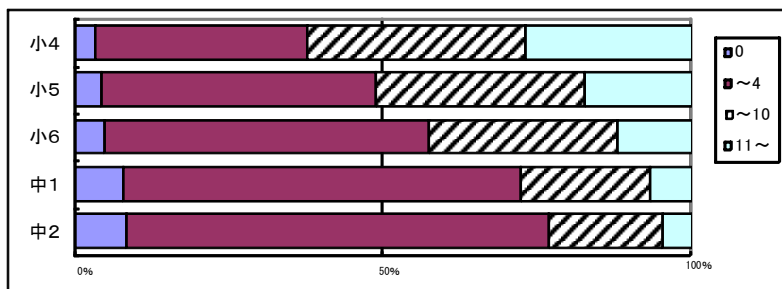
「つよくそう思う」「そう思う」の割合



読書が好きと回答した児童生徒の割合は、ほとんどの学年で昨年度より増加した。H23小4からH24小5は3ポイント減少し、H23中1からH24中2では1.5ポイント増加している。

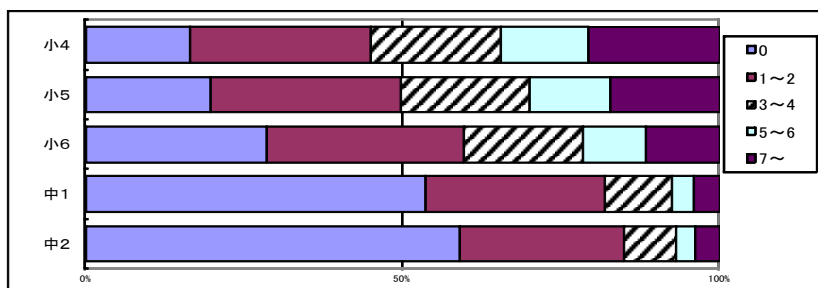
[1か月に何冊くらい本を読むか（教科書・学習参考書・マンガ・雑誌や付録は入らない）]

冊/月	0	~4	~10	11~
小4	3.3	34.5	35.4	26.7
小5	4.4	44.6	33.9	17.0
小6	5.0	52.6	30.7	11.7
中1	8.0	64.4	21.0	6.5
中2	8.6	68.5	18.3	4.7



[1か月に何回くらい図書館を利用するか]

回/月	0	~2	~4	~6	7~
小4	16.5	28.2	20.5	13.7	20.5
小5	19.6	29.9	20.4	12.7	17.1
小6	28.5	31.1	18.8	9.8	11.6
中1	53.6	28.2	10.6	3.4	4.1
中2	58.9	26.0	8.2	3.0	3.8



1か月に読む本の冊数について、全ての学年で90%以上の児童生徒が1冊以上の本を読んでいる。特に、小学校では児童の40%以上が1か月に5冊以上の本を読んでおり、読書習慣の定着がうかがえる。図書館の利用回数は学年進行とともに減る傾向があり、特に中学生になると半数以上が月に1度も図書館を利用していない。

3 調査結果の活用と課題への対応

(1) 調査結果および報告書の送付

12月の調査実施後、学習状況調査集計・分析システムを活用することにより、全県の集計データを1月中旬に学力向上支援Webに掲載した。各学校、各市町村教育委員会ではそのデータを閲覧し、自校と県平均との比較グラフなどをダウンロードするなどして活用している。本年度は、より見やすい個人票が作成できるよう、個人票印刷用ソフトを改善して配信した。また、各教科等の考察を加えた報告書を2月下旬に配信する。

(2) 教科に関する課題

小学校において、学年によっては設定通過率に達しなかった学校数が増えたことについて、現行の学習指導要領の実施にあたり、読解力や表現力が本県の目指す状況に達していないことが考えられる。

また、中学校では昨年度と比較して設定通過率を超えた学校数はやや減少するとともに、全体的に通過率が低い状況が見られる。特に数学・理科については、基礎的・基本的な学習内容の定着や計算方法の意味理解が不十分な面が見られる。しかし、質問紙の結果からは、生徒の学習意欲の高まりや授業改善が進んでいるなど良い傾向が見て取れる。

(3) 平成24年度における改善の手立て

・学校訪問等による指導

通常の学校訪問のほかに、全国学力・学習状況調査の結果分析による各校の課題に対する取組と学習状況調査による検証・改善を支援するため、各学校の要請に応じた学校訪問や市町村教育委員会からの要請に応じた研修会への講師派遣を行った。学力向上推進班が中心となり、各教育事務所・出張所と協力して、12月～2月に算数・数学、理科及び国語について6回実施した。

・**県の課題の提示と補足的な指導の実施**

県教育委員会は、各学校に対して本調査結果等から明らかになった課題を、平成25年1月に各学年・教科ごとに1、2問提示した。各学校は、これに自校の分析から明らかになった課題を含め、年度内に児童生徒の課題改善のための補足的な指導を行う。

・**来年度以降の授業改善に向けた取組の報告**

各市町村教育委員会および各学校においては、本調査結果を基に、今年度の取組とその成果を分析し、来年度以降の授業改善に向けた取組を3月中にまとめる。

(4) 平成25年度の取組

○**学校訪問等による指導**

全国学力・学習状況調査及び本調査の結果分析による各校の課題への取組と検証・改善を支援するため、各学校の要請に応じて義務教育課及び各教育事務所・出張所、総合教育センターの指導主事等が、授業改善のための学校訪問等による指導を実施する。

○**事業による取組**

①**理数学力向上推進事業**

・学力向上支援Web活用

単元評価問題をWebサイトで配信し、基礎的・基本的内容の定着を図るとともに、各学校の授業改善を支援する。

・観察・実験指導力向上講座

小学校教員の観察・実験等の指導力を向上させるため、出前講座による研修を行う。

・理数探究体験セミナー

理数系の進路に夢や希望を抱く人材の育成を目指し、児童生徒に算数・数学及び理科の探究的な体験活動をさせるセミナーを実施する。

②**あきたの教育力発信事業**

・検証改善委員会を設置して全国学力・学習状況調査の結果等を分析し、学校改善支援プランを作成して教育指導に係る提言を行う。

・小・中学校の授業を公開し、県内外の教育関係者によるパネルディスカッションを行うなどする学力向上フォーラムを開催し、一層の学力向上を図る。

③**あきた発！英語コミュニケーション能力育成事業**

・グローバル社会で求められる英語のコミュニケーション能力を育成するために、英語の使用機会の大幅な拡充や英語学習に対するモチベーションの一層の向上を図り、効果的な指導及び評価の方法を明らかにする。

・英語担当教員の英語力及び指導力の向上を図るとともに、県内の他校のモデルとなる実践事例を提供し、当該校の成果の普及を図る。教員の指導力向上を図る研修を実施するとともに、児童生徒のにつながるよう、Webを使った海外中学生との交流活動、スピーキングテスト等を行う。